長洲町立長洲小学校　校長便り　№.１６４

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和6年3月１４日(木)

【愛語錬】　人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし　急ぐべからず
不自由を常と思えば不足なし　～徳川家康～

卒業前雑感　「集団の動き」　本校の目指す自治的集団

子供達は、これから多くの仲間と出会い、切磋琢磨して人格を磨き、立派な大人になろうと努力していきます。その中で、悩み苦しみながらも壁を乗り越えていく力を身につけていくのも、青春時代ならではの経験でしょう。その営みの中で、私達大人は子供達の健やかな成長を願って支援していくのですが、対個人のサポートと共に、集団をコントロールすることも支援の一つだと捉えています。私は担任が学級をコントロールしていくこと（学級経営）にグループダイナミクス（集団の力学）の考え方を重ねて考えるようにしていました。その意味について、ある本にはこうあります。

「人間は、集団になったとき、個人がばらばらに行動するのではなく、集団ゆえに生まれる動力に従って行動する。これは、個人が集団から影響を受けるということであり、逆に集団に影響を与えるということでもある。」

「集団精神療法や精神保健福祉援助などで用いられる、集団精神療法の中で用いられている用語で、グループの力動とも訳されます。複数の援助の対象者で一つのグループを作って、そこにセラピストや支援者が関わるのが、集団精神療法や、集団援助活動です。そうすることにより、支援者と支援を受ける人が、一対一で面接する場合と異なる、グループ活動独特の、メンバー同士の相互作用が起こります。それをグループダイナミックス、と呼びます。」

更に具体的なグループダイナミックスの一例を説明するならば、私たちも経験があるものでは、学生時代に先生や親から勧められてもやらないようなことでも、友達から勧められたらやる、というような心理だと思います。グループの仲間同士で起こる、励まし、助言、など様々な相互作用や動きをグループダイナミックスといいます。

グループダイナミクスの視点で学級を見ると、色々なことが見えてきます。影響力のある子、みんなを和ませてくれる子、リーダーシップを発揮してくれる子、いい考えをもっていても意見を出せない子、周りに流されてしまう子…。色々な子が互いに影響し合って集団を形成し、その集団が微妙に干渉し合うのです。この干渉が良い方向へ働くと、学級集団は支持的共感的協力的な集団になっていきます。悪い方向へ働くと、排他的な雰囲気が漂い、集団への所属に対する喜びが低くなっていきます。女子がグループを作って、互いのグループが干渉し合い、くっついたり離れたりするのがその例です。そうならないように、担任は意図的に集団に働きかけたりするのです。

私達は毎年違う子供達や集団と出会い、マニュアル無しの真剣勝負には緊張感もありますが、遣り甲斐も大きいです。中学校に進学するにあたって、悪い方向へと流されないように中学3年間を過ごしてもらいたいものです。

シリーズ「自分を語る」＃１６４

中島小学校は元々地域のコミュニティの結束が強固な土地柄であるため、色々な行事を実施するにあたって協力体制が出来上がっていました。コロナ禍による自粛ムードが多くの行事を中止せざるを得ない状況にあって、早くそこから脱出したいという気持ちが、住民のエネルギーとして蓄積していたような状況でした。

ある日、校長室へ地区協議会の会長さんがいらっしゃいました。そこで会長さんからの一言。「校長先生、2月に強歩会をされるんでしょ？　そこに我々協議会も一枚かませてもらえんとか？」会長さんからのお話の概略はこうでした。強歩会の費用は協議会が持つこととして、その代わりに地域の皆さんも参加させてほしいということでした。私としては大歓迎です。何故なら、強歩会はこれまで費用は個人持ち（２００円程度ですが…）でしたし、ＰＴＡ主催とはいえ、閉鎖性の高い行事になっていたからです。強歩会の距離も体力やる気に合わせて選べるように、３つのコースを設定しました。Ａはフルマラソンの距離、Ｂはハーフ、Ｃは5㎞程の健康ウォークです。中島小学校校区は熊本城マラソンのコースにもなっており、それに倣っての発想だったと思います。３つのコースを仕切るのは、Ａコースは私澤田、ＢコースはＰＴＡ役員、Ｃコースは地区協議会長です。正に地域で創る地域の行事となりました。コロナ禍以降、地域の行事がことごとく中止になり、予算を含め多くの物資も余っていました。令和3年1月の正月行事で活用するはずだった「数の子」をはじめ、繰り越されていた予算等々を地域のために使おう！ということで、地域から強歩会の参加賞に拠出して頂くことになりました。熊本城マラソンは2月の半ばに実施されますが、コロナ禍によって令和2年度は早々に中止の連絡が入っていました。そこで、マラソン中止の寂しさを埋めるべく、2月半ばに強歩会実施と相成った訳です。

コロナ禍のせいか正月気分も早々に抜け、学校は既に卒業に向けて動き始めていました。いつもと違うのは、6年生を中心とした強歩会への参加希望者が、コースや行事そのものについての質問をしに来る場面が増えていったことです。中島小学校での強歩会コースは、とにかく直線コースが多かったことを思い出します。簡単に説明しますね。中島小学校は熊本港と国道3号線を結ぶ、真っすぐに伸びる「新港線」沿いにあります。まずは新港線を国道3号線に向かって出発し、国道3号を跨ぎますと、いわゆる国道3号と国道57号のバイパス、通称東バイパスに続きます。スタートからひたすら真っすぐのコースです。唯一の曲がり角は、保田窪交差点です。東バイパスと国体道路（産業道路から続く）の交差点です。ここから国体道路に入り、県立運動公園を目指します。スタジアムの先の立体交差で折り返し、同じルートで中島小学校を目指すコースです。お気付きの方も多いと思いますが、このルートは直線が多く、特に復路の新港線は西日を浴びながらひたすら直線が続くルートで、長洲小学校で実施される強歩会でいえば、天水から長洲に向かう国道501号線において、ＪＭＵのクレーンが見えているにも拘らず、中々ゴールできない道路状況に似ています。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）